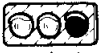


工具とジャッキ.....85
 バックしたときは.....89
 万一のときの処置.....94
 こんな故障の応急処置は.....97

工具とジャッキ

それぞれの格納場所、工具の種類、ジャッキの使い方などを確かめておきましょう。

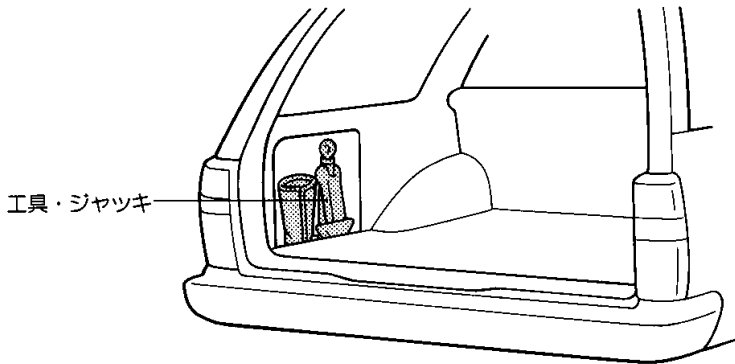


注意！

1. 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
2. 車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。
3. 車に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車に使用したり、他の車のジャッキをお客様のお車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

■格納場所

工具、ジャッキは荷室左側のカバー内に格納されています。



■工具

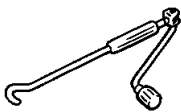
工具袋の中には、次の工具がはっています。



輪止め



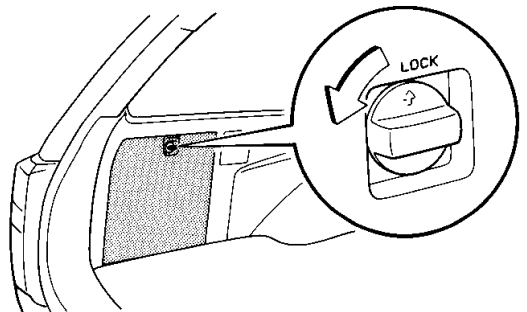
ホイールナットレンチ



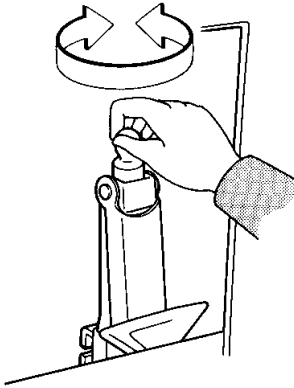
ジャッキハンドル

▶工具の取り出し方

ツマミをまわしてロックをはずし、フタを開けて取り出します。



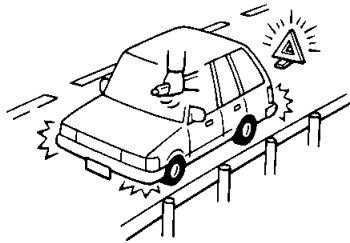
▶ ジャッキの取り出し方



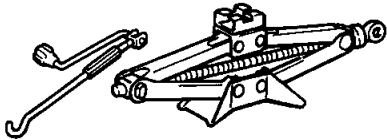
- ジャッキの図の部分ゆるめてはずします。
- 格納するときは、ジャッキが固定するようにかみあわせて締めます。

■ジャッキアップをする前に

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。



3. パーキング（駐車）ブレーキをしっかりとかけエンジンを止めます。
4. チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車はPの位置にします。
5. 工具やジャッキを取り出します。



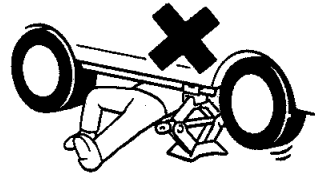
6. 輪止めを取り出します。

■ジャッキのかけ方




注意！

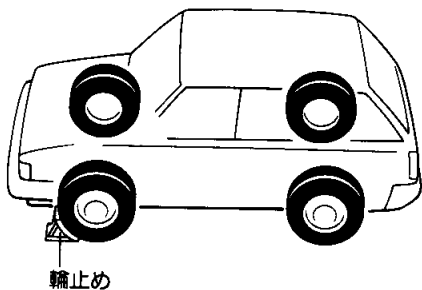
1. ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
2. ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。ジャッキセット位置以外にかかっていると、車体がへこんだり、ジャッキが倒れてケガをするおそれがあります。
3. ジャッキアップしたら車の下には絶対にもぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。



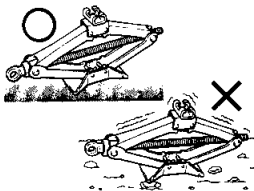
4. 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
5. ジャッキアップするときはジャッキの上や下に物をはさまないでください。
6. ジャッキアップしているときはエンジンをかけないでください。

1. ジャッキアップする位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

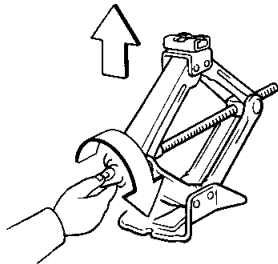
 前輪をジャッキアップするときは後輪のうしろ側に、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に輪止めをします。
ちよつと言



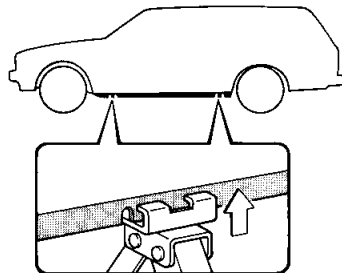
2. 地面の平らな固くて安定したところにジャッキをおきます。



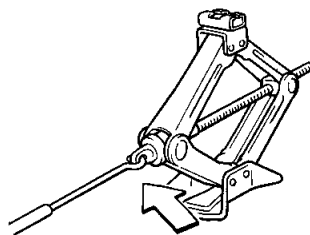
3. ジャッキの図の部分を手で右にまわして、車体のジャッキセット位置まで上げます。



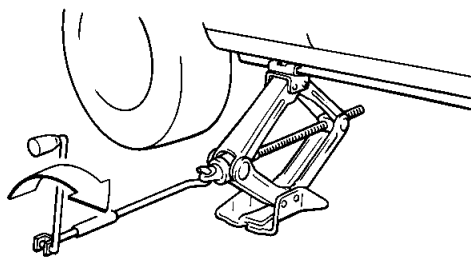
4. ジャッキは切り欠きの間にかけます。



5. ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。

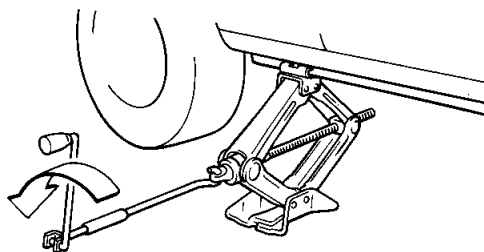


6. ジャッキハンドルを右にまわして、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。



■ジャッキの下げ方

ジャッキハンドルを左にまわして車体を降ろします。



パンクしたときは

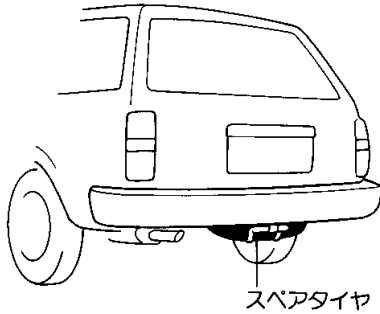
①スベアタイヤ



- 1.作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
 2.パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早めにパンク修理してください。

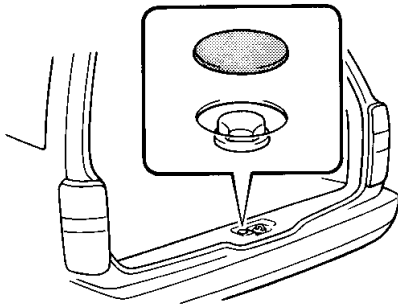
■格納場所

荷室床下部に格納してあります。

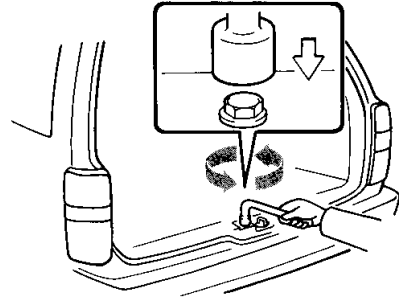


▶取りはずし方

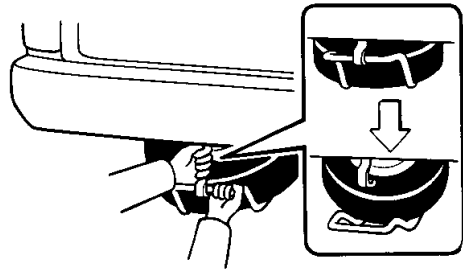
- 1.荷室床下のキャップをはずします。



- 2.ホイールナットレンチで床下のボルトを格納具をフックから取りはずせるくらいまで十分ゆるめます。



- 3.スベアタイヤ格納具を少し持ち上げて、フックを手前に引いてはずし、格納具を足の上などに落とさないように注意して地面におろします。



- 4.タイヤを取り出します。

▶取り付け方

- 1.取りはずしたときと逆の手順で行います。
 2.タイヤが確実に固定されていることを確認します。
 3.格納具がフックに確実に固定されるように床下のボルトは十分締めつけてください。



注意!

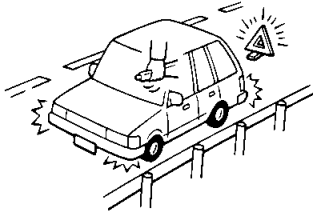
スベアタイヤの空気圧はときどき点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

万一のときの処置

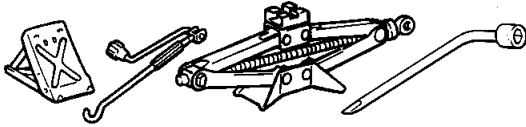
パンクしたときは——②タイヤ交換

■準備

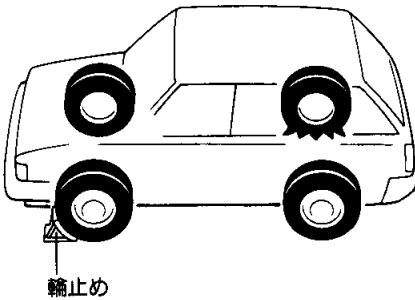
1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。



3. パーキング(駐車)ブレーキをしっかりかけエンジンを止めます。
4. チェンジレバーをマニュアルトランスミッション車は1速、オートマチックトランスミッション車は●の位置にします。
5. 工具やジャッキを取り出します。



6. パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。



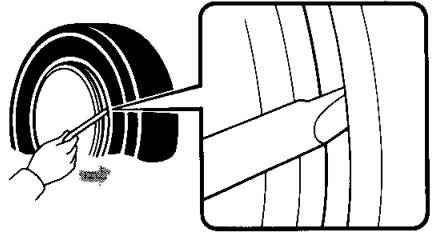
前輪がパンクしたときは後輪のうしろ側、後輪がパンクしたときは前輪の前側に輪止めをしてください。

ちょっと一言

7. スペアタイヤを取り出します。⇨89ページの「パンクしたときは——①スペアタイヤ」を参照してください。
8. ホイールキャップをはずします。

▶ホイールキャップの取りはずし方

ホイールナットレンチの先を差し込み、タイヤ側にこじるとはずれます。(2~3ヵ所、場所をかえて繰り返すと楽にはずせます。)



注意!

直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。ケガをするおそれがあり危険です。

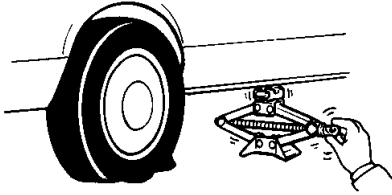


ちょっと一言

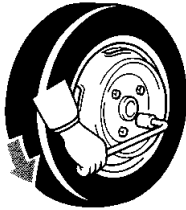
ホイールナットレンチ以外は使わないでください。

■ジャッキアップ

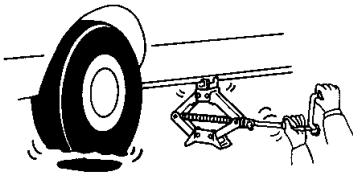
1. 取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置にジャッキをセットします。☞87ページの「ジャッキのかげ方」を参照してください。



2. ホイールナットレンチでナットを左に回し、少し回るくらいまでゆるめます。



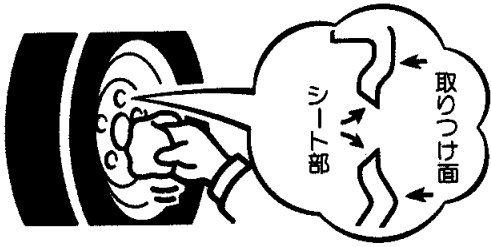
3. タイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップし、ナットを取りはずします。



■タイヤ交換

1. タイヤをスペアタイヤに取り替えます。

注意! タイヤを取りつけるときは、ホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面のよごれをふきとってから取りつけてください。ホイールのシート部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどでよごれていると、走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあり危険です。

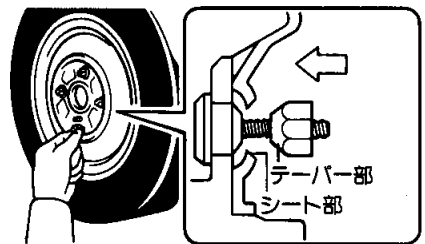


2. タイヤがかたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

注意! タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。必要以上に締めつけられてボルトが破損するおそれがあります。

▶ スチールホイール装着車は

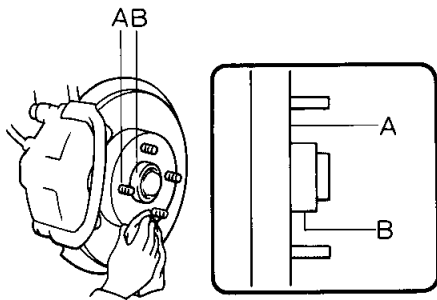
ナットのテーパー部がホイール穴のシート部に軽くあたるぐらいに仮締めします。



▶ アルミホイール装着車の場合は

- アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。
- アルミホイールを取りつけるときは次の手順で行ってください。

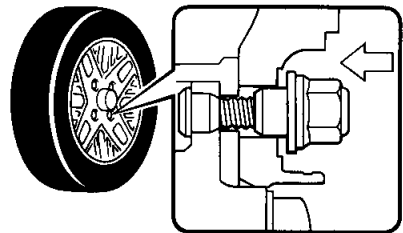
① 図のA、Bの面のよごれをふきとります。



② アルミホイールをBの部分に確実にはめます。

▶ アルミホイール装着車は

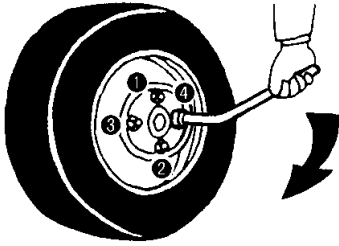
座金がホイールにあたるまでナットを仮締めします。



注意! ナットはトヨタ純正アルミホイール専用部品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあり危険です。

3. ジャッキハンドルを左にまわし車体を降ろします。

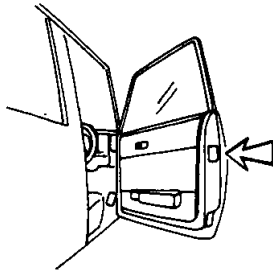
4. ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを2〜3度にわたり十分締めつけます。



注意!

ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。

5. ホイールキャップ付き車は、タイヤのバルブ(空気口)にホイールキャップの穴をあわせて取りつけます。
6. 取りつけたタイヤの空気圧を確認します。(図に示す運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



注意!

空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。



ちょっと一言

「タイヤ空気圧」表の中に示されているタイヤサイズは車種またはグレードにより装着できないものもあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

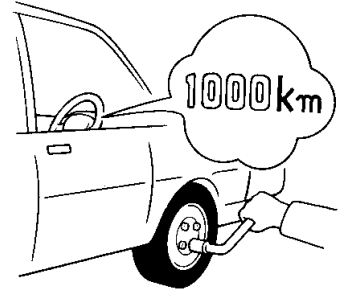
7. 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

タイヤを格納するときは確実に固定してください。



ちょっと一言

1. タイヤを脱着したときは、タイヤを取りつけて、1,000km走行後、再度ホイールナットを締めつけ、ゆるみがないことを点検してください。

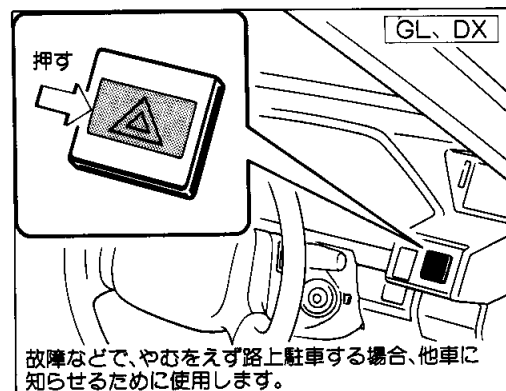
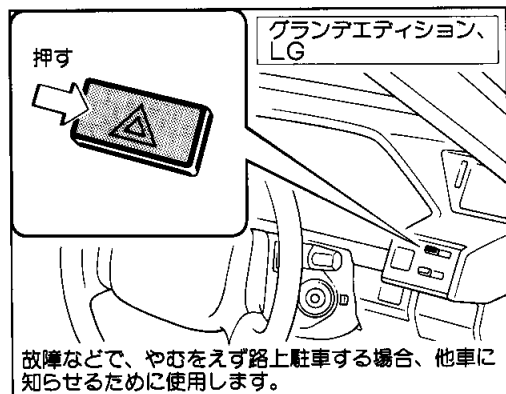


2. タイヤを新品と交換する場合は、トヨタ販売店で相談してください。
異なったサイズ、メーカー、銘柄およびトレッドパターン(溝模様)のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響をおよぼしますので、絶対にしないでください。
3. 傷、変形があるものは再使用しないでください。
4. 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。

万一のときの処置

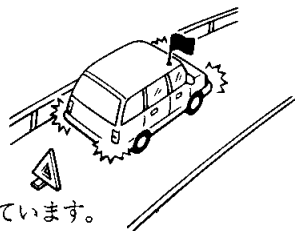
故障したら……

1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。



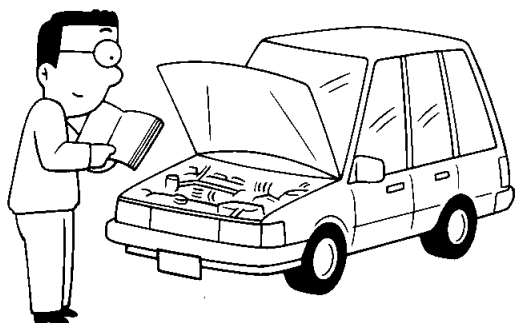
万一のときの処置

2. 高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いてください。法律で義務づけられています。



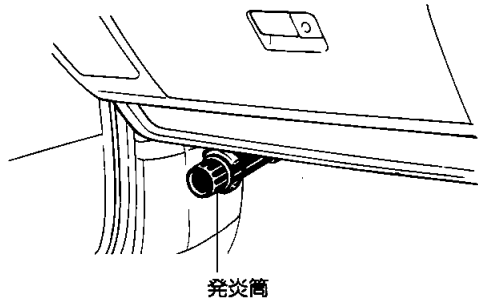
非常電話を利用する場合などは、安全な場所を歩くよう心がけてください。

▶ 困ったときはトヨタ販売店へご連絡ください。「メンテナンスノート」巻末のトヨタサービス網をご覧ください。



発炎筒

高速道路や踏切内などで、緊急を要するときに使用します。

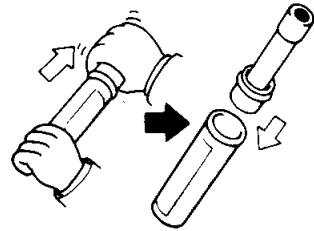


1. グローブボックス左下部に備えつけてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。
3. 発炎筒には、有効期間があります。

本体に表示してある有効期間のきれる前にトヨタ販売店でトヨタ純正ハイフレヤー(発炎筒)をお求めください。

▶使い方

1. 本体をひねりながら取り出し、逆にしてさし込みます。



2. キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



1. 発炎筒をお子さまにはさわらせてないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
2. 発炎筒をガソリンなどの可燃物の近くで使用しないでください。引火するおそれがあり危険です。
3. 発炎筒を使用中は顔や体に向けたり、近づけたりしないでください。
4. 発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので危険です。トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。



発炎時間は約5分ですので、非常点滅灯を併用するようにしてください。

こんな故障の応急処置は……

バッテリーあがりの処置は……

ブースターケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

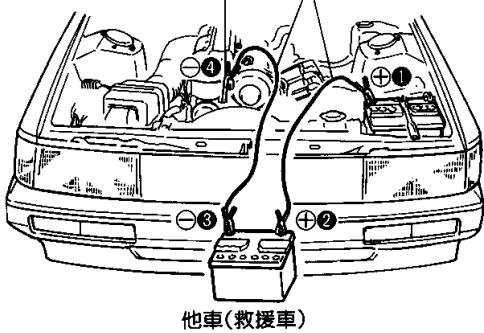


救援車は必ず12Vのバッテリーがついている車を使用してください。

1. ブースターケーブルを図の番号の順につなぎます。

1G-FEエンジン搭載車

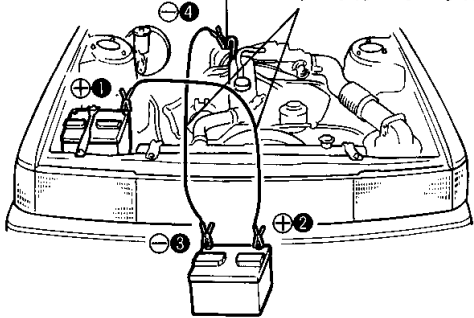
自車(バッテリーあがり車) エンジン本体へ(フックなど) ブースターケーブル



他車(救援車)

3Y-Eエンジン搭載車

自車(バッテリーあがり車) エンジン本体へ(フックなど) ブースターケーブル



他車(救援車)



注意！ ④の接続は自車バッテリーの-端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生しバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。



①の接続は必ず自車(バッテリーあがり車)の⊕端子にしてください。

2. 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにし、約5分間その回転を保持します。



救援車のバッテリーにより、自車(バッテリーあがり車)のバッテリーが充電されます。

3. 始動のしかたは○44ページの「エンジンのかけ方」を参照してください。



注意！ バッテリーに近づかないでください。バッテリー液が吹き出すおそれがあり危険です。

4. 自車のエンジンが始動したら、取りつけたときと逆の順序でブースターケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリンスタンドやトヨタ販売店で完全充電してください。



注意！ 1. ブースターケーブルを接続するとき、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。 2. 火気をバッテリーに近づけないでください。爆発するおそれがあります。



絶対に押しがけによる始動はやめてください。

万一のときの処置

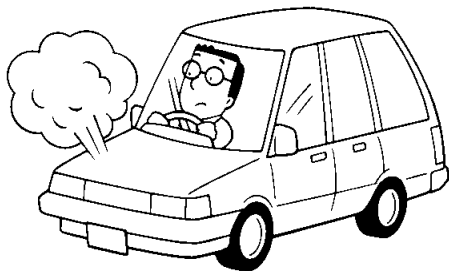
オーバーヒートの処置は……



注意!

1. ボンネットから蒸気がでているときは、蒸気がでなくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどをしたり、思わぬケガをするおそれがあります。また、蒸気がでていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
2. ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップをはずさないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあります。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
3. 冷却水は、エンジンが熱いときにいれないでください。急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりといれてください。

1. 車を安全な場所に止めます。エアコンを使用しているときは、OFFにします。



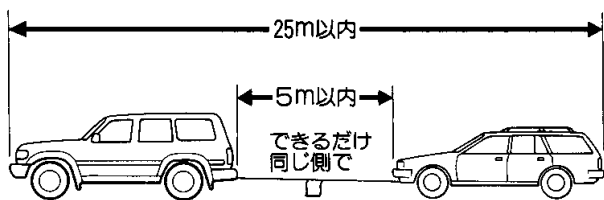
2. ボンネットから蒸気がでていたらエンジンを止めます。蒸気がでていなければ、ボンネットを開けてそのままエンジンをかけておきます。

〈ボンネットから蒸気がでている場合のみ〉

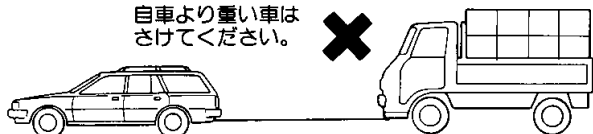
- 蒸気がでなくなったら、風通しをよくするためにボンネットを開けてエンジンをかけます。
3. ファンベルト切れの有無を確認してください。万一、ファンベルトが切れているときはただちにエンジンを止めてトヨタ販売店に連絡してください。
 4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、ラジエーターのコア部（放熱部）の著しいよごれ、ごみの付着の有無、ファンベルトのゆるみなどを点検します。
 5. 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。
 6. 早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

けん引してもらうときは……

けん引は、下図の方法を守ってください。



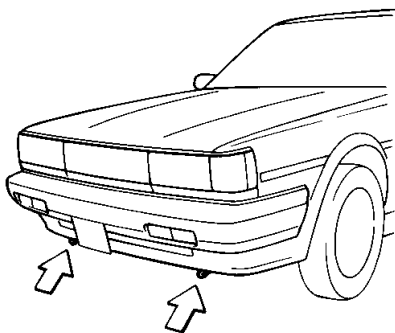
自車より重い車は
さけてください。



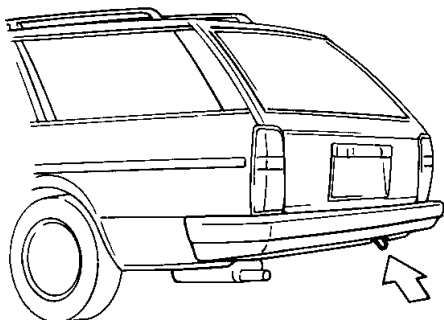
※けん引される車はけん引車の制動灯に注意して、常にロープをたるませないように気をつけてください。
また、けん引ロープには0.3メートル平方(0.3m×0.3m)以上の白い布を必ずつけてください。

■ロープをかける位置

▶フロント側



▶リヤ側



注意!

1. エンジンキーを抜いたり、エンジンスイッチをLOCK位置にしないでください。キーが抜けているとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。また、エンジンスイッチがLOCK位置だとキーが抜けるおそれがあります。
2. オートマチックトランスミッション車の場合、けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内にしてください。この速度、距離を超えるとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。
3. 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
4. けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると事故につながるおそれがあります。



ちょっと一言

1. けん引される車は、次の事項を厳守してください。
 - チェンジレバーをNの位置にする。
 - エンジンスイッチをACCまたはONにする。
2. フロントけん引フックを使用されるときはボデーに傷をつけないようにロープに布などを巻いてください。
3. 次の場合は、けん引する前にトヨタ販売店にご連絡ください。
 - エンジンが回っているのに車が動かないまたは異常な音がする。

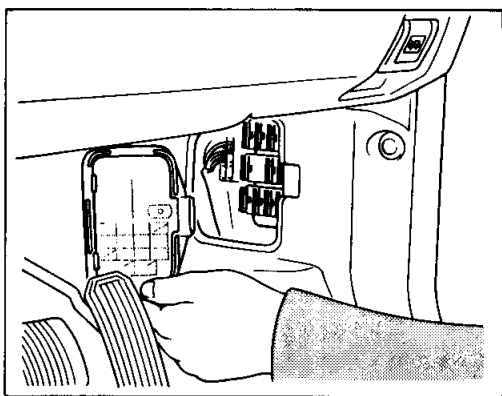
ヒューズが切れたときは……

各種のランプがつかないときや、電気系統の装置が働かないときは、ヒューズが切れているか、サーキットブレーカーが電流をしゃ断している場合があります。ヒューズボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておくくと便利です。

■ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスは、運転席足元とエンジンルーム内にあります。

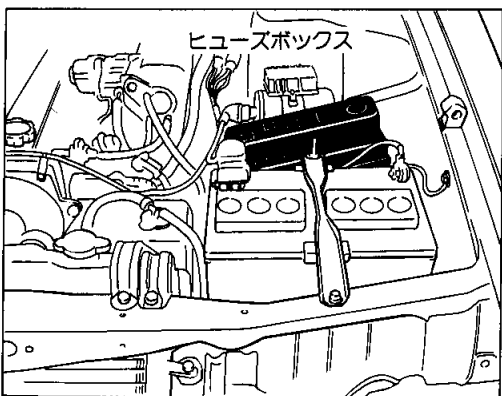
▶運転席足元ヒューズボックス



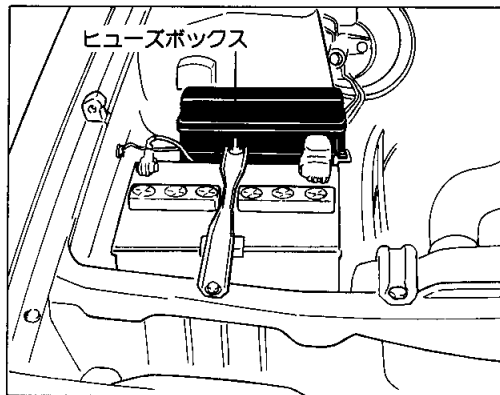
運転席足元のヒューズボックスの中には、ヒューズおよびサーキットブレーカーがあります。ヒューズおよびサーキットブレーカーの受け持っている装着はP102ページを参照してください。

▶エンジンルーム内ヒューズボックス

1G-FEエンジン搭載車



3Y-Eエンジン搭載車



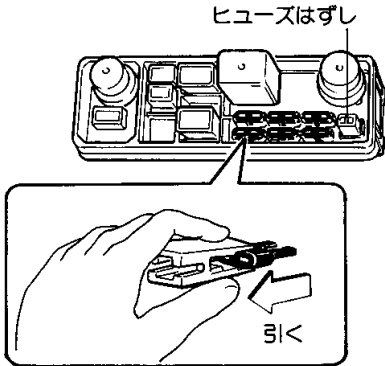
ちょっと一言

ヒーター、エアコンが作動しないときは
トヨタ販売店へご連絡ください。

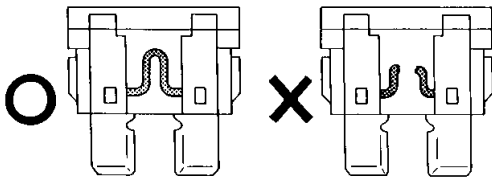
■ヒューズの交換

各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは次のように処置してください。

1. エンジンスイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜きます。(ヒューズはずしは、エンジンルーム内ヒューズボックスについています)



3. ヒューズが下図の右側のようなであれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。

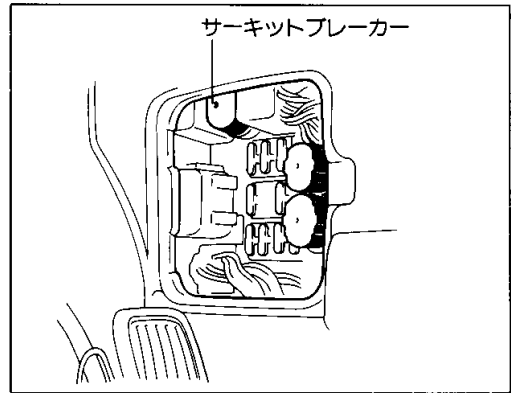


注意!

1. ヒューズのかわりに針金、銀紙などを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあり危険です。
2. 取り替えてもまたヒューズが切れる場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

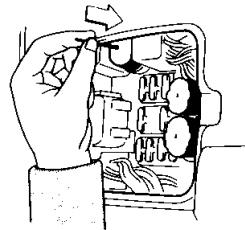
■サーキットブレーカー

サーキットブレーカーは、装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置です。



- ▶ リヤウインドウデフォグガー(曇り取り)、電磁式ドアロック、パワーウインドウが作動しないときは、サーキットブレーカーの回路がしゃ断されている場合があります。

1. エンジンスイッチをLOCKの位置にします。
2. サーキットブレーカーの穴に細い棒をカチッという音がする位置まで、軽く差し込みます。
3. これでサーキットブレーカーの回路が復帰します。



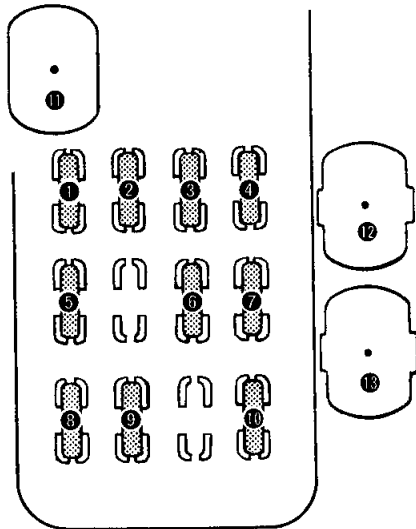
ちょっと一言

1. マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。
2. 以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキットブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ販売店で点検を受けてください。

万一のときの処置

ヒューズとサーキットブレーカーの受け持つ装置

■運転席足元ヒューズボックス



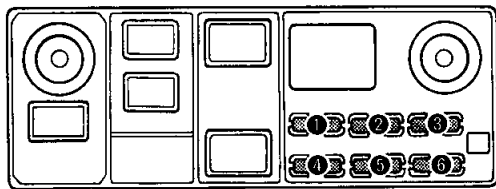
<ヒューズ>

①	ストップランプ	15A	制動灯
②	フォグランプ	15A	フォグランプ
③	ターン	7.5A	方向指示灯
④	イグニッション	7.5A	充電警告灯、 排気コンピューター
⑤	エレクトロニクスIG	15A	オルタネーター
⑥	ライター	15A	シガレットライター
⑦	ラジオ	7.5A	ラジオ、 電動リモコンミラー
⑧	ワイパ	20A	ワイパー & ウォッシャー
⑨	テールランプ	15A	尾灯、番号灯、車幅灯、計器照 明、ラジオ照明、ヒーター照 明、シガレットライター照明、グ ロープボックスランプ、チェン ジレバー位置表示
⑩	メータ	7.5A	警告灯類、計器、後退灯、 オーバードライブ

<サーキットブレーカー>

⑪	リヤウインドウデフォグガー(曇り取り)
⑫	電磁式ドアロック
⑬	パワーウインドウ

■エンジンルーム内ヒューズボックス



<ヒューズ>

①	オルタネータS	7.5A	オルタネーター
②	ヘッドランプ(左)	15A	ヘッドランプ (左側)
③	ヘッドランプ(右)	15A	ヘッドランプ (右側)
④	ルームランプ	10A	室内灯、時計、半ドア警告灯、 パーソナルランプ、エンジンキ ー照明
⑤	ハザード・ホーン	15A	警音器、非常点滅灯
⑥	EFI	15A	エンジンコントロールコンピ ューター



予備ヒューズはヒューズボックスの
カバーに取りつけられています。

- ヒューズの一部、サーキットブレーカーは車の仕様によりない場合があります。
- 各ヒューズ、サーキットブレーカーの受け持つ装置は主なものについて記載しています。

ランプ類が点灯しないときは……



ちよつと一言

1. ランプ類が点灯しないときは、ヒューズ切れの他、ランプ自体の球切れが考えられます。
電球の交換は、次の各規格にあわせて、同容量のものにしてください。
2. ハロゲンランプ（ヨウ素入り電球）は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。
電球交換時に、手などがガラスに触れないように注意してください。
3. ランプ類はすべて12V用をご使用ください。

■フロント側電球



注意！

ハロゲン電球はガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶついたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。

▶ヘッドランプ

ハロゲン ……………60/55W

▶フォグランプ

グランデエディション、LG

ハロゲン……………55W

▶車幅灯……………5W

▶フロント方向指示灯(兼非常点滅灯) ……21W

▶サイド方向指示灯(兼非常点滅灯)…………5W

■リヤ側電球

▶方向指示灯(兼非常点滅灯) ……………21W

▶制動灯/尾灯 ……………21/5W

▶後退灯……………21W

▶番号灯

グランデエディション、LG、GL ……………5W

DX ……………7.5W

▶バルブ式ハイマウントストップランプ……27W

■室内電球

▶室内灯……………10W

▶パーソナルランプ……………8W

▶デッキルーム灯……………10W

▶グローブボックスランプ ……………1.4W



注意！

- 同じW数の電球以外は使用しないでください。過熱などにより故障の原因になります。
- 電球および電球固定具の取り付けは確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面のくもりにつながるおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



ちよつと一言

ヘッドランプ・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的にくもることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスがくもると同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内部に水がたまっているときは、トヨタ販売店にご相談ください。